


審査公報掲載文原稿用紙

受付年月日 年 月 日

	<p>最高裁判所判事 まかい とある 徹 昭和三年七月十七日生</p>
<p>略歴</p> <p>和歌山県田辺市生まれ。地元の小学校、中学校、和歌山県立田辺高等学校を経て、東京大学法学部を卒業。</p> <p>昭和五十七年 四月 司法修習生 五十九年 四月 検事任官</p> <p>以後、札幌地検、札幌地検検察部、大阪地検、大津地検、法務大臣官邸司法第四室長、東京地検八王子支部、東京地検の各検事、旭川地検検察部長、最高検事務取扱検事などとして勤務。</p>	
<p>平成二〇年 九月 東京地検交通部長 二二年 一月 東京地検公安部長 同年 七月 東京地検特別捜査部長 二四年 七月 福岡地検検事正 二五年 七月 東京地検次長検事 二八年 七月 東京地検次長検事 二九年 九月 東京地検検事正 三〇年 九月 仙台地検検事長 三〇年 七月 次長検事 令和二年 七月 東京地検検事長 同年 七月 退官 同年 九月 最高裁判所判事</p>	
<p>最高裁判所において関与した主要な裁判</p> <p>最高裁判所判事就任後日が続いたため、特に記すべきものはありません。</p>	
<p>裁判官としての心構え</p> <p>私は、最高裁判所判事に任官して時もないですが、最高裁判所は「憲法の番人」とも呼ばれ、大変重い役割を担い、事業によっては社会に大きな影響を与えることもあります。その最高裁判所の判事の一人として、誠実に責任を担っていることを常に意識しながら、職務を遂行して参ります。</p> <p>最高裁判所判事に任官する以前は、主として検察の現場で検察官として刑事事件に携わりました。検察官は事件の捜査・公判に関与する中で、事件の真相究明に必要な専門的知識を磨き上げてきたのみならず、社会と組織の有り様や事件の背景となった様々な事情に関しても学ぶとともに、検察官としての義務の判断に達するためにいろいろな観点から考え、知恵を絞ってきました。</p> <p>最高裁判所は憲法が委ねた現代社会において、種々の観点から検討を行い、紛争解決のために適正妥当な判断を下すことが求められます。私としては、これまでの検察官としての経験を最高裁判所判事の職務に生かすことによって、この重い職責を果たし、公平・公正で紛争解決として社会正義を実現して国民からの期待と信頼に応えたいと思っています。</p> <p>そのためにも事件の当事者の目いかに十分耳を傾けるとともに、同僚の最高裁判所判事との研鑽の中で思考を深めながら、学び続ける覚悟と謙虚な姿勢で誠心誠意職務を遂行していきたいと考えています。</p>	

裁判官 堺 徹

備考

- 掲載文は、原稿用紙の黒枠内に記載し、又は記録しなければならない。
- 掲載文は、原寸大で印刷し、原稿用紙の黒枠の線はそのまま掲載するものとする。